

安曇野市観光振興ビジョン委員会
第7回委員会議事概要

掲載

1 委員会名	第7回 安曇野市観光振興ビジョン策定検討委員会
2 日時	平成25年2月19日 午後 1時 30分から午後 4時まで
3 会場	市民活動センター 大会議室
4 出席者	増田委員、川崎委員、樫井委員、清水委員、金井委員、松本委員、小岩井委員 太田委員、加渡委員、上條委員、等々力委員、宮崎委員、岡本委員
5 市側出席者	大内部長、曾根原観光課長、赤羽課長補佐、高山係長、請地係長、山本主査、西山主査 受託事業者（交通公社）
6 公開・非公開の別	公開
7 傍聴人 2人、記者 0人	
8 会議概要作成年月日	平成 25年 2 月25 日

- 会議事項
- 1 開会
 - 2 委員長挨拶
 - 3 議事
 - ①安曇野市観光振興ビジョン最終案について
 - ②今後の具体的な進め方について
 - 4 その他
 - 5 閉会

議事録（概要版）

① 安曇野市観光振興ビジョン最終案について

委員

- ・ 総合計画後期基本計画（案）の将来像「北アルプスに生まれ 共に響き合う 田園産業都市 安曇野」は田園産業都市ではなく、田園景観都市ではないか。
- ・ ビジョン内の文章表現は、できるだけ前向きな文章とするべき。
- ・ 戦略プロジェクト内で使用されている写真に写っている地域資源については、その地域資源に対する何らかの取り組みを記載すべきではないか。

事務局

- ・ 総合計画後期基本計画（案）の将来像については、他計画であることから本委員会でその取り扱いを決めることはできないことを了承いただきたい。

委員

- ・ 「安曇野暮らし5箇条」の文章に「肥沃な大地」とあるが、安曇野は扇状地であり肥沃な土地とは言えないのではないか。

事務局

- ・ 他計画での表現を踏まえて、修正するのか現状の文章とするのか検討したい。

委員

- ・ 主要施策 4-3 の取り組みのイメージ「移住アドバイザー（仮称）」は、「安曇野暮らしアドバイザー（仮称）」と表現を変更すべきではないか。
- ・ 本ビジョン内では観光客ではなく、来訪者と表現を統一すべき。

委員

- ・ 主要施策 4-2 では小中学校などの総合学習だけでなく、安曇野検定などを活用してもっと一般に広げていく取り組みも記入すべき。また、安曇野検定は教育委員会が所管しているが、観光課が所管すべきではないか。

委員

- ・ 「空き家バンク制度」はどこが所管する予定か。

事務局

- ・ 現在は企画財政部企画政策課が所管している。本庁舎移転後は観光が所管するかもしれない。

委員長

- ・ 本日もいただいたご意見への対応については、委員長・副委員長に一任とさせていただきたい。なお、「肥沃な大地」の表現については、委員長・副委員長・事務局で検討後、メール等で全員に連絡する。

② 今後の具体的な進め方について

委員

- ・ 安曇野市観光協会が安曇野暮らしツーリズム協会（仮称）の中核組織となってくるが、現状では荷が重い。

事務局

- ・ 観光事業者以外の商工業者や農業団体、市民と一緒に取り組んでいかないと経済波及効果は出てこない。ビジョンに記載されていること全てを安曇野市観光協会が担う訳ではない。安曇野暮らしに協力していただけるよう市が説明していく。

委員

- ・ コミュニティビジネスをまとめていく組織が必要である。今後、設置される予定の安曇野市観光振興ビジョン推進会議（仮称）の役割は大きいと考えられるため、体制図に入れ込むべきではないか。

委員

- ・ プラットフォームは現状の安曇野市観光協会では難しいだろう。安曇野市観光振興ビジョン推進会議（仮称）の位置付け、メンバー構成を教えていただきたい。

事務局

- ・ 委員会は、本委員会のメンバーを中心として 10 名以内で構成する予定である。

委員長

- ・ 安曇野市観光振興ビジョン推進会議（仮称）は単なるアドバイザーなのか、どの程度権限のあるものを想定しているのか。

委員

- ・ これからの推進体制は安曇野暮らし 5 箇条をどのように発信していくのかということが求められる。安曇野暮らしに関わる情報を全て集約し、また来訪者に合わせて編集し、発信していくことが必要である。

- ・ポータルサイトには、物販機能や動画などが求められるだろう。また、外国人旅行者のために英文は必須となるだろう。

委員

- ・周辺地域との連携はどのようになるのか。安曇野を起点として上高地から白馬まで動くことができる、またそれらの情報を提供していくことが必要である。

委員

- ・本ビジョンは、観光の枠を超えていくことに意義がある。安曇野市観光振興ビジョン推進会議（仮称）では、本ビジョンを元に行動計画をつくる必要があるのではないかと。行動計画がなければビジョンを達成していくことは難しいだろう。

委員

- ・既存の安曇野市観光協会の枠組みを外していかなければうまくいかないだろう。安曇野市観光振興ビジョン推進会議（仮称）では、実行部隊をどのようにしていくのか検討すべき。

委員

- ・安曇野暮らしツーリズム協会（仮称）については、基本的には安曇野市観光協会が主体となるべきではないか。そのお目付役として、安曇野市観光振興ビジョン推進会議（仮称）があるのではないかと。これ以上、組織を増やすべきではない。

委員長

- ・推進体制については、様々な意見があり、さらに議論していくことが必要である。

委員

- ・安曇野暮らしツーリズム協会（仮称）と安曇野市観光振興ビジョン推進会議（仮称）が、別々の組織ではうまくいかないだろう。まず、安曇野市観光振興ビジョン推進会議（仮称）を立ち上げ、それを安曇野暮らしツーリズム協会（仮称）の準備委員会としてはどうか。1本化した命令系統であることが必要であり、行動が伴わなければ進んでいかないだろう。

委員

- ・安曇野暮らしツーリズム協会（仮称）には、専属の職員が必要である。専属職員がいなければ進んでいかないだろう。

委員

- ・本委員会には、安曇野市観光協会の事務局が委員として入っておらず、現状を良く把握できていない。
- ・安曇野市ではすでに様々な活動が行われており、それらをつなげていくことが必要である。そのつなげていく役割が安曇野市観光協会に求められる役割ではないか。

委員

- ・安曇野市観光振興ビジョン推進会議（仮称）では、各団体の代表者に出てきていただき、安曇野暮らしツーリズム協会（仮称）の中心メンバーとなる方々に入っただけなければ実践に結びつかないのではないかと。

委員

- ・推進にあたっては1つの組織で進めていくべきであるが、事業の進捗管理を行う組織と権限は分けるべきだろう。

委員

- ・ 安曇野市観光協会を活用しなければならないと考えるが、現状の体制では難しい。若いメンバーを入れて、安曇野市観光協会が変わっていくことが必要だろう。

委員

- ・ 今までの安曇野市の観光は、様々な組織が平坦に並んでいた。これからはもっと立体的な体制にしていかなければならない。

委員

- ・ 安曇野暮らしツーリズム協会（仮称）は、安曇野市観光協会の今後の姿であり、安曇野市観光協会は変わらなければならない時期になってきている。本来、法人化する際に組織を改編すべきであった。安曇野暮らしツーリズム協会（仮称）は、今後の安曇野市観光協会の方向性が明確になった。しかし、現状では物理的に人手不足であり、プラットフォーム機能を受けていくためには安曇野市観光協会内で議論しなければならない。

委員

- ・ 観光関連事業者だけでなく市民まで巻き込んでいかなければならない。ビジョンを具現化するにあたっては、いきなり行動していくのではなく、行動計画をつくる必要がある。安曇野市の環境基本計画の推進方法が参考になるのではないかと。理想としては、安曇野市観光協会が安曇野暮らしツーリズム協会（仮称）となることであるが、何年か先になるのではないかと。

委員

- ・ ビジョンをどのように推進していくのかが大切である。現状の安曇野市観光協会はイベントが中心であり、これから事業を行おうとしている段階である。事業が組み立てられる前に、それらの評価を行う機関を組織するのは順番がちがうのではないかと。10年計画のなかで安曇野暮らしツーリズム協会（仮称）をどのように組織していくのか考えていくべき。

委員長

- ・ ビジョンの内容については、ご了承いただいた。今後、本ビジョンを具現化していくための推進組織については様々な意見をいただいた。推進体制については、時間をかけてどのように観光地域づくりプラットフォームをつくっていくのか考えていくことが必要である。

副委員長

- ・ 本ビジョンの内容については、委員長・副委員長に一任いただきたい。